

おおいた 法の海

第 43 号

発行所

浄土真宗本願寺派

大分教区基幹運動推進委員会

〒874-0920 別府市北浜3丁目6-36

本願寺別府別院内

TEL 0977-22-0146

FAX 0977-24-7831



報恩講 (本願寺四日市別院)

御正忌 『華束』の由来

今から七四三年前、お浄土へ還帰された親鸞さまのご生涯を偲ぶ御正忌報恩講が、全国各地で厳修されています。そもそも報恩講は、ひ孫にあたる覚如上人が、聖人の三十三回忌にあたり、法要の儀式作法を定めた『報恩講式』に始まり、以後約七百年余り、毎年厳修され、受け継がれ、今日に至っております。

法要にあたり、真宗独自のお荘厳として、小餅を積み上げてお供えをする「華束」があります。「なぜあんな面倒なことを…大きめの餅を飾れば早いのに…」、「ご門徒に配りやすいように…食べやすいように…」などと、勝手な理由を考えていましたが、それは大きな間違いでした。

実は、関東の地に居住しておられた聖人の孫の如信上人が、ご命日にむけて京都へ上洛。そのおり、関東のお同行さんたちが、貴重な餅米を如信上人に託し、上人は京都のお廟の尊前に小餅としてお供えして、毎年報恩講が厳修されたのです。実はあの小餅一つ一つは、当時の関東のお同行さんたち念仏者の心の表れであり、現在は、門信徒一人一人の「念仏者のいのちの慶び」が、あの小餅にこめられているのです。

御同行御同朋の喜びを教えてくださいました親鸞さまのご恩徳を偲び、如来の大慈悲のなかに生かされていることに感謝することが、まさに御正忌報恩講のご縁であります。

合掌

(前少年連盟委員長・光楽寺 摂受定信)

某月某日、某寺にて。

★ ★

A子 御院家さん、こんにちは。

住職 いらつしやい。明日は入
仏法要でしたね。おめでとうご
ざいます。

A子 実は、車を上等なものにし
ようか、お仏壇を上等なものにし
ようかと、ずいぶん悩んだんで
すよ。結局、車は十年もすれば
替わるけど、お仏壇は一生替え
ることはないだろうからという
ことで、お仏壇の方を上等な
にしました。

住職 それは良い考え方ですね。
何でもそうですけど、安物だと
思うと扱いも雑になるし、上等
と思えば丁寧に扱うようになる
ものです。家族みんなが同じ心
で一つの方向を向くことができ
る唯一の場がお仏壇ですから、
大事にしてください。

赤いロウソク

A子 はい。ところで、仏壇屋
さんから入仏式は赤いロウソク

を使うように言われたんですけ
ど、どういう意味があるんです
か。

住職 仏さまをわが家にお迎え
するお祝いですから、赤いロウ
ソク(朱蠟)を用いるんですよ。
A子 お祝いという意味なんで
すね。ロウソクといえば白いも

りしてるから、見たことがある
はずですね。ぼんやりしている
から、見逃していたんでしょ
うね。

住職 お仏壇のお荘厳は、お寺
のお荘厳のミニチュアになって
いますから、これからはお寺の
法要の時に、注意してよく見

ペンペン草の境内地 ⑰ろうそくの色



のだと思っていたので、赤いロ
ウソクがあるって初めて知りま
した。

どんな時に朱蠟を

住職 お寺では朱蠟を使うこと
も多いんですよ。たとえば、親

鸞聖人の報恩講や、お正月の元
旦会(たんえ)の時には朱蠟を
用います。

A子 あら、それなら私もお参

A子 はい。入仏式以外にも、
家庭で赤いロウソクを使うこと
があるんですか。

住職 もちろん、親鸞聖人の報

恩講や、お正月などには、朱蠟
を用いたら良いと思いますよ。
それからご法事のときに用いて
も良いですよ。

A子 ご法事ですか。
住職 大分では白蠟が多いです
けど、関西では七回忌以後の法
事には朱蠟を用いることも多い
ようです。三回忌までは悲しみ
の真っ只中にあるけれども、七
回忌を過ぎると故人の死をご縁
として遺族が仏法に出遇うこと
ができた喜びと感謝の意味から
朱蠟にするんです。

A子 ほかの色のロウソクもあ
るんですか。

住職 お葬式の時には銀色のロ
ウソクを用いますし、住職継職
法要や仏前結婚式では金色のロ
ウソクを用います。たとえ仏前
で結婚式をしなくても、結婚式
の日には金蠟を用意すると良い
ですね。夫婦の門出の日に、お
仏壇に金色のロウソクが立って
いるのは、すがすがしくてステ
キだと思えますよ。

掲示伝道

簡易法語掲示板

〔中津組光榮寺仏教壮年会〕



手作り出来る『法語掲示板』
の紹介を...いたって簡単!

A2サイズのカードケースの
間に、北豊教区上毛組製作の法
語カレンダー(毎年発行12枚・
毛筆体)を利用して中に挟み込
み、ケースの四隅に穴を空け、
取り付け用の針金を通したら:
出来上がり。雨にも風にも大丈
夫です。

出来上がった簡易掲示板(全
部違う種類の法語です)を会員
が持ち帰り、自分の家々の扉や
玄関などに掲示をしています。
また、例会の時に持ちより、
ケースごとの交換でローテーショ
ン使用。今後は、法要のご案内
や寺からの連絡等も、入れ込も
うと思案中です。

悪人正機

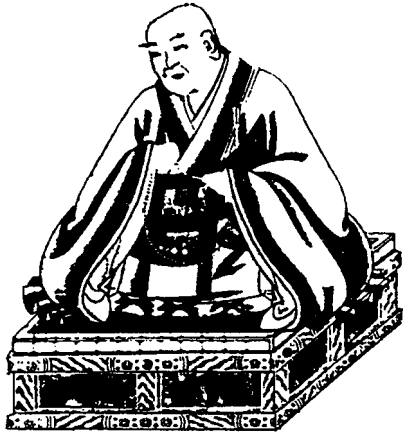


普賢保之

今回は悪人正機あんにんしょうきについて書いてみたいと思います。意外に思

われる方も多いかも知れませんが、悪人正機という言葉は、親鸞聖人ご自身がお使いになったのではありません。『歎異抄』たんにしやう第三条の「善人なほもつて往生をとぐ、いはんや悪人をや」を江戸時代の学者が悪人正機という言葉であらわしたものです。

また悪人正機は、一般的には親鸞聖人独自のものと考えられています。醒醐本だぶごぼん『法然上人伝記』には、「善人尚もつて往生す、況や悪人をや（口伝これ有り）」と、『歎異抄』とほとんど同じ文がでてきます。「善人尚もつ



法然上人 (1133~1212)

て往生す、況や悪人をや」という言葉を法然上人のお弟子である勢観房源智せいかんぼうげんちが、上人から直接聞いたというのです。このことは上人がすでに「善人尚もつて往生す、況や悪人をや」という言葉を門弟に対して語っていたことを示しています。

それでは法然上人まで悪人正機の考え方はなかったのでしょうか。善導大師ぜんどうだいしの『観経四帖疏』かんにんしよしつしよ「玄義分」を見ますと、「諸仏の大悲は苦あるひとにおいてす」とあります。つまり仏の大悲は今実際に苦しんでいる者にこそ

注がれると説かれているのです。「苦あるひと」を悪人と定義できるかは吟味の必要があります。が、実際に苦しんでいる者にこそ、仏の大悲は注がれるという内容は注目すべきでしょう。

善導大師とほぼ同時代になりますが、朝鮮半島に元暁げんげうという方がおられました。この方の書かれた『遊心安楽道』ゆうあんあんらくどうには「浄土宗の意、本凡夫のためなり、兼ねては聖人のためなり」とあります。阿弥陀仏のはたらきの中心は、凡夫にあると示しているのです。これも悪人正機と同じ考え方に立つものでしょう。

このような考え方は、すでに浄土真宗の根本聖典である『仏説無量寿経』の中に見ることができ。『仏説無量寿経』は阿弥陀仏の本願（第十八願）を説いた経典です。第十八願には、救いの対象を「十方衆生」と示しています。阿弥陀仏はすべての衆生に対してはたらき

かけているというのです。それを『歎異抄』第一条には、「弥陀の本願には、老少・善悪のひとをえらばれず、ただ信心を要とすとすべし。そのゆゑは、罪悪深重・煩惱熾盛の衆生をたすけんがための願にまします」と示されています。

しかしすべての衆生の中には、私たちのように自らの力では苦悩の解決など、とてもおぼつかない者もいます。その私たちが平等に救ってこそ、すべての衆生を救うこととなります。本願文に「悪人こそ正しき救いの目当て」とはありませんが、「十方衆生」という言葉の中に、その意味を窺うことができます。『歎異抄』の第十八条には「聖人のつねにおおせには、弥

陀の五劫思惟ごこうしゆいの願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり」とあります。弥陀の本願は他の誰でもないこの私一人を目当てにしているのです。悪人正機とは仏の慈悲を表わす言葉です。しかもその慈悲は自身みづかみの力では云何いかなともし難いこの私に向けられているのです。それを取り違えると、浄土真宗のみ教えが他人事となつたり、「悪はおもふさまにふるまふべし」といった間違つた領解りやうげに陥ることになってしまいます。

で示しています。その一つに「天女が三年毎に一度天より下りてはその羽衣はうももをもつて四十里立方の石を磨すつて、それを磨すりつくすほどの長き時を一劫ごうという」（真宗辞典）があります。



仏語 劫ごう

インドの時間の単位で、極めて長い時間のことを言います。

長い時間を表すのに喩え



ビハラー法話

おんもよおしのままに

小若女弘子



自然界の最も美しい現象の一つに、満開の桜が挙げられます。う。その美しさは古くから和歌や俳句等、多くの詩歌にも謳われて参りました。

長い冬を裸木で耐えて来た桜樹が、春という季節が訪れると、何万、何十万という数の花を一緒に咲かせます。青空に映え、地上に映える、その荘厳なまでの美しさ。おそらく桜樹自身も自らの美しさに、驚いているのではないのでしょうか。

花を咲かせるのは勿論、桜樹自身ですが、その背後には、目に見えない大なる自然の摂理が働いていることは否めません。この自然の摂理こそ、如来のおん働きであり、全き他力であり、ましよう。雨になり風になり、光になり陰になり、寒になり暖となつて具現するおん働きに、桜樹は唯、素直に、その身を委ねて、一途にひたすらに、己の美しさを誇りもせず咲いているのです。その無心さが見る者

をして、感動させるのでありましよう。しかし、桜花は桜樹にしか咲きません。桃や梨の樹には桜は咲かないのです。桃樹には桃花、梨樹には梨花と、その個を通して、それぞれのいのちの花を咲かせます。まさに、「青色青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光」の世界です。



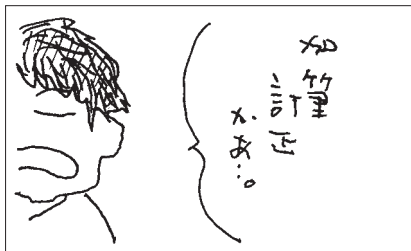
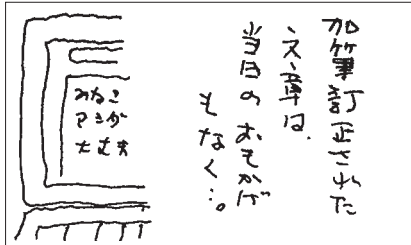
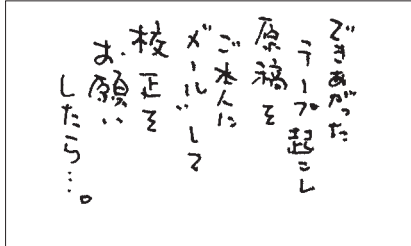
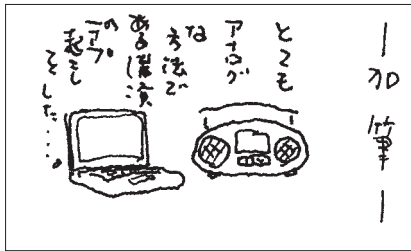
以前に、A師から、阿弥陀經の原典には、この一節を「青色青光青陰 黄色黄光黄陰 赤色赤光赤陰 白色白光白陰 雑色雑光雑陰微妙香潔」とあることを伺い、非常に感銘を覚えたことです。光ばかりでは物の像は掴めません。眩しいばかりです。近寄り難いです。光あるところには、必ず陰が生じます。陰があるということは、光に照らされている証しです。光と陰が相俟つて立体感も生じ、全体の象がはつきりと見えて来ます。醜さも愚かさも弱さも、光に出遇つて頂ける陰でありましよう。陰をも雑色をも大きく包まれてある世界、その世界をおんもよおしのままに、賜つた自身を頂いて、精一杯生きたいものです。

南無阿弥陀仏

泉立歴史博物館で平成十七年度企画展「おはなしの絵―物語りと絵解き―」がありました。その『目録』で、「おはなしの絵は、現在でも小説などのコミック化さらには音声と一体になったドラマや映画のように、発展しつつ、つくり続けられています。……しかし、実は、こうした絵と音声が一体となつた情報の伝達方法が昔からあつたのです。それが、おはなしの絵を言葉で解説する絵解きです」と記載されています。

あとがき

おんもよおし



表紙写真説明

四日市別院お取り越しでの
保育園児参拝風景

12月11日から同16日まで勤修される四日市別院報恩講。

「お取り越し」として親しまれ、地域の中に溶け込んでいます。

法要中は、教区仏青によるバザーや地域振興会による催し物なども行われています。



紙芝居「しんらんさま」全三巻